

平成22年度 事業評価（事業活動記録）

事業No. 197

| | | | | | | | |
|------|-------------------|-----|-----------------------|------|-------|--|--|
| 所管部局 | 市民部 | 所管課 | 市民課 | 担当者名 | 今西 良匡 | | |
| 事業名 | 地域交流活性化支援事業 | | | 事業分類 | ソフト事業 | | |
| 細事業名 | 文化センター地域交流活性化支援事業 | | | 政策体系 | 411 | | |
| 会計 | 一般会計 | 科目 | 3. 民生 - 1. 社会 - 2. 地域 | | | | |

1. 事業の概要

市民のニーズや動向を的確に判断し、講座の開設及び文化祭を通して、地域文化の継承。

2. 事業の目的と必要性

① 施策で目指す目標との関連付け

地域及び周辺地域の住民の社会的、経済的、文化的向上を図り、生活上の課題やさまざまな人権課題の解決に資するために講座の開設、就労相談等さまざまな相談事業や生活改善事業を実施。

② 事業を実施する必要性

地域及び周辺地域の住民の社会的、経済的、文化的向上と人権問題の早期解決のために必要。

3. 事業費の推移

| | | 単位 | 平18決算 | 平19決算 | 平20決算 | 平21決算 | 平22予算 | 平23計画 | 平24計画 |
|-------------------------|----------|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 決算額または計画額 | | 千円 | 920 | 757 | 728 | 763 | 757 | 757 | 757 |
| うち一般職・嘱託職・臨時職の給与および共済費等 | | 千円 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 財源内訳 | 使用料・手数料等 | 千円 | 0 | 0 | 28 | 34 | 34 | 34 | 34 |
| | 国・府支出金 | 千円 | 0 | 0 | 350 | 364 | 325 | 361 | 361 |
| | 地方債 | 千円 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 一般財源 | 千円 | 920 | 757 | 350 | 365 | 398 | 362 | 362 |
| 職員等の従事人員 | | 人/年 | — | — | 0.20 | 0.13 | | | |
| 人件費 | | 千円 | — | — | 1,171 | 1,092 | | | |
| 事業費総額 | | 千円 | — | — | 1,899 | 1,855 | | | |

※事業費を要しない場合は「0」、事業を実施しない場合は「空白」で表示。
※千円未満を四捨五入し表示しているため、合計等が一致しない場合がある。

4. 主な事業費の内訳

| | |
|--------|----------------|
| 講座開催事業 | 600,000円（講師料等） |
| 文化祭開催 | 163,033円（消耗品等） |

5. 事業結果の概要

| | | | |
|-------------------------|---------------|-----|--------|
| 仁江 | 1講座(生花)開催 | 12回 | 60名参加 |
| 埴生 | 2講座(生花・書道) | 48回 | 288名参加 |
| 半田 | 3講座(生花・書道・歌謡) | 60回 | 480名参加 |
| 半田文化祭（作品展示・舞台発表）約100名参加 | | | |

6. 活動の詳細

| 活 動 内 容 | 活動日又は時期 | 活 動 結 果 等 |
|---|-------------|---|
| (1) 仁江文化センター | | |
| 生花教室 生花の技術習得 | 月1回 | 生花を通じて教養・文化の向上を図るとともに交流を深めた。年間12回 延べ60人 |
| (2) 埴生文化センター | | |
| 生花教室 生花の技術習得 | 月2回 | 生花を通じて教養・文化の向上を図るとともに交流を深めた。年間24回 延べ120人 |
| 書道教室 書道の技術習得 | 月2回 | 書道を通じて教養・文化の向上を図るとともに交流を深めた。年間24回 延べ168人 |
| (3) 半田文化センター | | |
| 半田文化祭 文化祭を通じて、各地域の文化の発表や展示を行い交流を深めるとともに、交流を深める。ステージ発表、作品展示、工作教室 | 平成21年11月22日 | ステージ発表や作品展示、工作教室などを行ったことにより、各地域の交流が深まり、人権意識の高揚につながった。延べ100人 |
| 生花教室 生花の技術習得 | 月1回木曜日 | 生花を通じて教養・文化の向上を図るとともに交流を深めた。年間12回 48人 |
| 書道教室 書道の技術習得 | 月2回火曜日 | 書道を通じて教養・文化の向上を図るとともに交流を深めた。年間24回 192人 |
| 手芸教室 手芸の技術習得 | 月2回金曜日 | 手芸を通じて教養・文化の向上を図るとともに交流を深めた。年間24回 240人 |

7. 所属長評価 [平成20年度から改善した点、今後の展開など]

交流促進講座の開設等、館長会議を中心に議論し今年度設置された文化センター運営審議会の審議内容により今後の展開を図る。

【参考】過年度の評価

■平成21年度の所属長評価

- ①有効性・効率性を向上させるため、担当職員と議論を重ねた点
交流促進講座の今後の方向性について会議を行った。
- ②当該事業のアピール事項
講座を通じて人権問題解決の早期解決に努めた。
- ③反省点、今後の展開・方向性等
住民のニーズにあった講座の広域的な展開が必要である。